

さあ、保険の新次元へ。

T&D 保険グループ



株 主 通 信

2019年度 中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで

Contents

ページ

- 1 グループ経営理念・T&D保険グループのあゆみ
- 3 トップメッセージ
- 5 中期経営計画の進捗状況
- 7 T&D保険グループのCSRの取組み
- 9 ESGの取組みに対する外部評価
- 10 社外取締役インタビュー
- 11 2019年度上半期のグループ各社の取組み
- 14 グループインフォメーション
- 15 IR活動の紹介
- 16 業績ハイライト

株式会社 T&Dホールディングス

15th
Anniversary

証券コード: 8795

上記の写真は、2018年に実施した「Try & Discover フォトコンテスト」の入賞作品です。

グループ経営理念

Try & Discover (挑戦と発見) による
価値の創造を通じて、
人と社会に貢献するグループを目指します。

グループ経営ビジョン

〈お客さまからの視点〉

私たちは、最優の商品・サービスの提供により、
お客さま満足度のトップを目指します。

〈株主・投資家・市場からの視点〉

私たちは、成長に向けた新たな挑戦により、
安定的・持続的に企業価値を向上させ、
確固たる存在感のある保険グループを
目指します。

グループブランドメッセージ

さあ、保険の新次元へ。

T&D 保険グループ

T&D保険グループ経営理念のキーワードである
「Try & Discover (挑戦と発見)」の精神をもち、
従来の概念にとらわれない柔軟な発想で
未来に向けて新たに挑戦していく強い意志を
「新次元へ」という言葉で表現しています。

T&D保険グループ T&Dホールディング

T&Dフィナンシャル生命

2001年 T&D保険グループ入り
T&Dフィナンシャル生命(旧東京生命)
がグループ入りし業務開始



太陽生命旧本社(東京都)
1930年竣工

 **太陽生命**

1893年 創業

2002年
大同生命が相互会社から
株式会社に組織変更



 **大同生命**

1902年 創業



大同生命旧肥後橋本社
(大阪府) 1925年竣工

T&Dアセットマネジメント
2002年
グループの資産
運用会社を集約

1999年
T&D保険グループ発足
太陽生命と大同生命が全
面的な業務提携を発表、
グループ名称を「T&D保険
グループ」に決定

プのあゆみ グス設立15周年

15th
Anniversary

2003年
太陽生命が相互会社から
株式会社に組織変更



2007年
ペット保険会社を子会社化
ペット&ファミリー少額短期保険

2016年
T&Dホールディングス、太陽生命、大同
生命の本社機能をグループ組成の地
である東京都中央区日本橋に移転

 **ペット&ファミリー**
損害保険株式会社

2019年
損害保険会社に移行

2019年
T&Dユナイテッド
キャピタル設立

2019～2021年度
グループ中期経営計画
～共有価値の創造～

2016～2018年度
グループ中期経営計画
～成長領域拡大の3年～

2014～2015年度
グループ中期経営計画
～基盤強化期間～

株式会社 T&Dホールディングス
2004年 設立・上場



日本で初めて生命保険事業を中核とする
持株会社として設立・上場

トップメッセージ

株主のみなさまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに「2019年度 中間報告書(株主通信)」をお届けしますので、ご高覧くださいませようお願い申し上げます。

今後もT&D保険グループは、社会と価値を共有し、持続的に成長する保険グループを目指し、企業価値の向上に取り組んでまいります。

2019年12月

株式会社T&Dホールディングス

代表取締役社長 上原弘久



Q1 2019年度中間期の業績について教えてください。

A 2019年度中間期の決算は、グループ合算の保険料等収入が8,752億円(前年同期比2.4%増)、基礎利益が855億円(同3.9%増)と順調に推移しました。親会社株主に帰属する中間純利益は、362億円(同20.4%減)となりましたが、通期業績予想の640億円に対し当初計画通りに進捗しております。

また、グループの企業価値を表すEV(エンベディッド・バリュー)^{*}

は、2兆6,521億円(前年度末比470億円増)と、金融環境が変化するなかにおいても、着実に積み上げることができました。

この先も経済や金融市場などグループを取り巻く環境は大きく変化していくことが想定されますが、T&D保険グループでは、引き続き経営の健全性を維持しつつ、安定的・持続的な企業価値の増大を図ってまいります。

^{*}P16参照

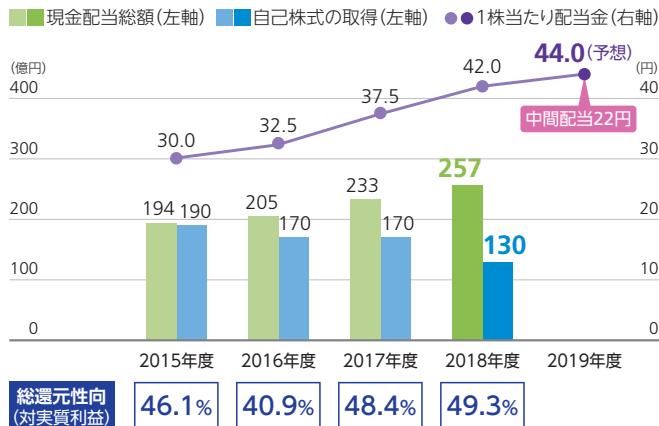
Q2 株主還元方針について教えてください。

A 当社及びグループ会社の経営の健全性維持に留意し、グループとして必要な内部留保を確保したうえで株主価値の向上に取り組み、安定的な利益配分を実施していくことを基本方針としています。

2019年度の間配当は1株につき22円、期末配当を含む2019年度の年間配当予想は1株につき44円となります。これは2018年度の年間配当である1株につき42円に比べ、2円の増配となります。

また、2019年5月～6月に取得価額総額約130億円の自己株式取得を行いました。引き続き収支の状況や自己資本の状況を踏まえ、機動的に実施していきたいと考えております。

株主還元実績



Q3 コーポレート・ガバナンス体制について教えてください。

A 持株会社である当社は、グループ戦略の決定、グループ経営資源の適正な配分及び資本政策の策定を担うとともに、直接子会社に関する経営上のリスクを的確に把握し、当社グループ全体の収益・リスク管理等を徹底するなど、グループ経営管理体制の構築に取り組んでいます。

具体的な当社のコーポレート・ガバナンス体制としては、取締役会において経営の重要な意思決定及び業務執行の監督を行うとともに、監査役会設置会社として、取締役会から独立

した監査役及び監査役会により、取締役の業務執行状況等の監査を実施しています。また、当社及び直接子会社の役員を選解任及び役員報酬に関する公正性・妥当性について審議し、経営の透明性の確保及び説明責任を図るため、社外取締役が過半を占める指名・報酬委員会を設置しています。

今後とも、コーポレート・ガバナンスのより一層の充実を図ることで、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に取り組んでまいります。

T&D保険グループ 中期経営計画（2019-2021年度） 「Try & Discover 2021 ～共有価値の創造～」

2019年4月にスタートした中期経営計画では、中核生保3社を中心とした「コアビジネスの強化」と、グループが一体となって推進する「事業ポートフォリオの多様化」を成長戦略の柱としております。

1 コアビジネスの強化

コアビジネスである国内生命保険事業では、中核生保3社の強みに磨きをかけ、それぞれが特化する事業領域でトップブランドの確立を目指します。

加えて、ミレニアル世代の保険ニーズに対応するために、外部機関等との提携を通じ、新たな特化市場を構築していきます。これらの特化戦略の追求により、保険収益力のさらなる強化を実現してまいります。



2 事業ポートフォリオの多様化

「事業ポートフォリオの多様化」の主な目的は、生命保険事業での知見やリソースを活用可能な新領域への事業展開や外部成長の取込みにより、収益源の複線化を図ることにあります。

生命保険事業と親和性が高く、グループ連結利益への貢献と将来の高い成長性が期待できるクローズドブック事業^{*}やアセットマネジメント事業等に対し、事業投資を進めてまいります。

^{*}保険会社が販売停止した商品の保有契約ブロック(クローズドブック)を取得・集約し、バリューアップを通じて収益化するビジネスモデル

■ T&Dユナイテッドキャピタルの設立

2019年6月、子会社としてT&Dユナイテッドキャピタルを設立しました。グループ経営資源を集約することで、専門性の発揮、リスク・リターンの適切な管理、スピード感のある意思決定などをベースにグループ一体となった効果的・効率的な組織体制を構築しています。



■ フランスの資産運用会社との資本業務提携

2019年9月、フランスの資産運用会社Tikehau Capital (ティケオー・キャピタル)と資本業務提携契約を締結しました。本提携に基づき、当社グループのT&Dアセットマネジメントが、低金利が続かなかで年金基金等の関心が高まりつつある「プライベート・デット」^{*}商品等を提供してまいります。

^{*}銀行以外の主体(ファンド等)による信用力が比較的低い中小規模の企業を対象としたデットファイナンス(借入金)

T&D保険グループのCSRの取組み ～SDGsへの貢献～

SDGs^{※1}の浸透やESG投資^{※2}の拡大を受け、CSRの概念は、「社会貢献活動」から「社会に向けた価値の創造とそれを通じた企業成長の取組み」であるとの理解が進んできたと考えています。この考え方は、当社グループ発足時から掲げている経営理念「価値の創造を通じて、人と社会に貢献するグループを目指す」と一致するものです。

今回の中期経営計画の策定に先立ち、SDGsの17の目標から、社会にとっての重要度が高く、また当社グループの事業との関連が大きい社会的課題の優先度を確認し、重点的に取り組むCSR重点テーマを選定しました。

事業の特徴や強みを活かしたグループCSRの取組みを通じて、SDGsへの貢献を推進してまいります。

 ※1 SDGs: Sustainable Development Goals。2015年国連サミットで採択された持続可能な世界を目指して取り組む17の目標。

※2 ESG投資: P9参照

各テーマにおける当社グループの取組み

重点テーマ1

すべての人の健康で豊かな暮らしの実現

- 少子高齢化進展により変化する社会に向き合う保険商品・サービスの提供

- 介護の負担に備える保険やサービスの開発、提供
- 人生100歳時代を生きるための年金、認知症治療に備える保険やサービスの開発、提供



- 中小企業健康経営[®]※実践を支援する活動
- 認知症予防アプリ等の開発、提供等

※「健康経営[®]」は特定非営利活動法人 健康研究会の登録商標です。



重点テーマ2

すべての人が活躍できる働く場づくり

- OJT、集合研修、自己啓発支援等、人材の活用と育成
- 管理職登用や育児サポート制度整備など、女性の活躍を支援する取組み
- 在宅勤務や労働時間縮減、休暇取得促進等、仕事と家庭を充実させる働き方刷新の取組み
- お取引先企業の従業員さまが健康で安全に働ける環境づくりのお手伝い



重点テーマ3

気候変動の緩和と 適応への貢献

- 電力使用量削減、事務用紙使用量削減の取組み
- 環境保護に資するグリーン購入の取組み
- 森林を守り育てる活動
- 地球環境の保護に取り組むNPOとの協働・支援



重点テーマ4

投資を通じた持続 可能な社会への貢献

- 再生可能エネルギー使用効率化事業への投資
- 水不足問題を解決する事業への投融資
- 発展途上国の青少年育成支援、雇用支援に貢献する投融資
- 人々の健康の増進に寄与する事業への投資



「日経ソーシャルビジネスコンテスト」への特別協賛

T&D保険グループは、日本経済新聞社が主催する「第3回日経ソーシャルビジネスコンテスト」に特別協賛しています。当コンテストは、SDGsをテーマに、スタートアップ企業や学生がソーシャルビジネス(貧困など社会的課題への取り組みを継続的な事業活動として進めていくこと)を提案するコンテストです。

当社グループは、「Try&Discover (挑戦と発見)による価値の創造を通じて、人と社会に貢献する」ことを企業理念としており、当コンテストへの協賛を通じて、社会の課題に挑戦して社会に価値を創造しようとする次代のリーダーを応援し、ともに持続可能な社会の発展に貢献していきたいと考えております。

Nikkei
Social
Business
Contest



さあ、保険の新次元へ。

T&D 保険グループ

CSR活動の詳細は、サステナビリティレポート
2019をご覧ください。

<https://www.td-holdings.co.jp/csr/report/>

ESGの取組みに対する外部評価

ESGインデックスへの組み入れ

ESGとは、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance)の英語の頭文字をとった用語です。

ESGを重視することが、企業の持続的成長や中長期的な収益力につながるとともに、財務諸表には表れないリスクを回避するうえで重要と考える機関投資家が増えており、ESG情報を投資判断に活用するESG投資が拡大しています。

当社グループは、ESGについて分かりやすく透明性のある情報開示に努めており、それらの取組みが評価され、国内外のESGインデックスの構成銘柄に採用されています。

国際株式インデックス



FTSE4Good

MSCI

2019 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes

国内株式インデックス



FTSE Blossom
Japan

MSCI

2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数

MSCI

2019 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

※上記のインデックスは、FTSE社(英ロンドン証券取引所グループの子会社)やMSCI社(ニューヨークの金融サービス会社)が、ESG面で優れた企業を選別して構成する株式インデックスです。世界の機関投資家が株式投資のベンチマークとして採用。また、世界の運用会社においては、当インデックスに連動するファンドが多数運用されています。

外部機関からの主な受賞・表彰 (2019年度上半期)

(内閣官房・厚生労働省)
第1回プラチナキャリア・アワード 優秀賞

(日本デザイン振興会)
2019年度 グッドデザイン賞

(厚生労働省)
日本HRチャレンジ大賞 イノベーション賞

(全国森林レクリエーション協会)
美しの森づくり活動コンクール 奨励賞

(厚生労働省)テレワーク推進企業等厚生労働
大臣表彰～輝くテレワーク賞～ 優秀賞

(ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会)
UCDAアワード2019 10周年記念特別表彰

社外取締役インタビュー

指名・報酬委員会委員長 松山 遥氏

実効性のあるガバナンスの実現に向け、特に強化が求められているのが、モニタリング機能になります。モニタリングの強化とは、業務執行状況や業績の評価であり、取締役会の諮問機関である指名・報酬委員会により、役員の指名・報酬の決定プロセスへ関与することが要とも言えます。そこで、指名・報酬委員会の委員長である松山 遥氏へインタビューを行いました。



指名・報酬委員会の役割

社外取締役は、必ずしもその会社の業務や社内事情に精通しているわけではないので、重要な業務執行を決定するマネジメントには一般的には向いていません。むしろ独立した社外取締役の立場としては、役員の選任・解任や報酬などの決定に関するプロセスについて、モニタリングする機能を強化させていく役割を担うべきだと考えています。

当社の指名・報酬委員会には、社外取締役がその過半数を占める立場から主体的に指名・報酬の決定プロセスへ関与することでモニタリング機能を強化する役割があります。

指名・報酬委員会での議論

当社が抱えている課題や今後の目指していく姿、それを担うのにふさわしい人をどう選ぶか、あるいはどう育てるかということ話をしています。指名・報酬委員会としては、なかでも次の経営トップへの後継者計画について早い段階から議論するとともに、社内でもどのように候補者を評価し、何を考慮して候補にあげていきたいのか、という説明をきちんと求めること、そこに不合理なと

ころがないかをチェックすることが重要だと考えています。

私が指名・報酬委員会のメンバーとして関わった直近の社長交代は、2018年4月の喜田前社長から上原社長への交代です。その際には、どのような考えを持った人なのか、今後の当社のかじ取りをするにはどのような経験を持つ人材が必要なのかなど、ざっくばらんに話を伺いながら、忌憚なく議論することができたと思っています。

今後の指名・報酬委員会のあり方

当社では、後継者計画について早くから指名・報酬委員会で検討するなど、本気で、委員会を活性化させようという気持ちがあると感じています。

ただ、今後のあり方ということでは、日本の指名・報酬委員会はまさに今ようやく形ができつつある段階であり、新しいテーマや論点がどんどん出てくるのが想定されます。

これから指名・報酬委員会のあり方自体が世の中の変化とともに変わっていくので、その変化にあわせて当社も変えるべきは変えながら、指名・報酬委員会を発展させてまいります。

2019年度上半期のグループ各社の取組み



『ひまわり認知症予防保険』がグッドデザイン賞を受賞

2018年10月より販売している『ひまわり認知症予防保険』が、「2019年度グッドデザイン賞」(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

今回の受賞は、「人が何らかの理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインととらえ、その質を評価・顕彰」する同賞において、認知症の予防に向けた取組みが評価されたことによるものです。

これまでに販売した『ひまわり認知症予防保険』を含む認知症関連商品の合計販売件数は、2019年9月末時点で52万件を超えるなど、大変ご好評をいただいております。



GOOD DESIGN
AWARD 2019

「スマ保険」始めました

2019年10月より、インターネットで保険申込みができる「スマ保険」を開始しました。

「スマ保険」では、インターネットによる保険見積もりや申込みと、同社が培ってきた「人」による丁寧なサービスを融合することで、アフターフォローの充実したインターネット完結型保険という、今までにない新たな保険の提供を目指してまいります。

「スマ保険」専用ページはこちらです。

https://www.taiyo-seimei.co.jp/net_lineup/



『保険組曲Best』の『入院一時金保険』をリニューアル、『先進医療保険』を新発売

2019年11月に、主力商品である『保険組曲Best』のラインナップをリニューアルしました。

『入院一時金保険』は、入院日数短期化の傾向をふまえて、日帰り入院であっても20万円のお支払いが可能となり、さらに、所定の生活習慣病の場合には最大40万円までの入院一時金をお支払いできる保険です。

また、『先進医療保険』は、公的医療保険の対象外である先進医療の技術料を一回につき1,000万円を限度に「先進医療給付金」でカバーすることができます。



業界初 経営者の多様なニーズに応えるオーダーメイド保険の発売

経営者の高齢化・現役期間の長期化を踏まえ、法人のお客さまへの死亡保障・就業不能保障の推進と経営者の個人保障の推進による「法人・個人を一体としたトータルなご提案」を一層進めることで「コアマーケットのさらなる深耕」に取り組んでおります。

2019年7月には、「オーダーメイド型」の新商品『Lタイプα』『Jタイプα』『Tタイプα』を発売しました。本商品は、中小企業における保障ニーズが多様化しているなか、「保険金額」「保険期間」「保険料・解約払戻金のバランス」を自在に設定できる業界初の保険になります。

中小企業と経営者を取り巻くさまざまなリスクに対し、“トータルな保障”でサポート

トータル保障の推進



従業員を大切にする経営者の想いにお応えするための主な付帯サービス

業界初 「安否確認システム」の提供 (2019年4月開始)

大地震等の災害発生時に、経営者が従業員の安否確認を確実・迅速に実施できる「安否確認システム」を無料で提供しております。今後は、お客さまの安否確認結果を災害発生時の保険金等の請求勧奨業務といった保険会社の本業に活用することも検討してまいります。

業界初 外国人従業員の取扱いを拡大 (2019年6月開始)

外国人労働者が増加するなか、国籍に関わらず従業員を大切にする経営者の想いにお応えするため、「外国語による説明資料の作成」「多言語による通訳窓口の設置」などを整備することにより、日本語での理解が困難な外国人従業員の方の取扱いを開始しました。(対象言語:8カ国語)

T&Dフィナンシャル生命

ニーズに応じた商品を販売

ゆとりあるセカンドライフのための生活資金の準備・遺族保障等のニーズに応える資産形成型商品や、お客さまの家計見直しニーズ・保障見直しニーズに応える保障性商品をお届けしております。今後も引き続き、魅力的な商品・サービスの提供に努めてまいります。

『生涯プレミアムワールド5』発売

当商品は、海外の金利と為替を活用した一時払の終身保険『生涯プレミアムワールド4』をリニューアルし、2019年7月に販売開始しました。

これまでご負担いただいていた初期費用を不要とするとともに、一定期間、死亡保険金額を円で最低保証する機能を追加しました。



『ファイブテン・ワールド2』発売

当商品は、海外の金利と為替を活用した一時払の個人年金保険『ファイブテン・ワールド』をリニューアルし、2019年10月に販売開始しました。

従来からの内容を拡大し、介護・認知症にも備えられる「介護認知症保障プラン」を新設しました。



T&Dアセットマネジメント

T&D保険グループの資産運用会社として、特長のある運用商品やサービスを提案・提供することにより、お客さまの資産形成に寄与できるよう努めております。

2019年9月に、T&Dホールディングスはフランスの資産運用会社であるティケオー・キャピタル社と資本業務提携契約を締結いたしました。本提携に基づきT&Dアセットマネジメントは、ティケオー・キャピタル社の子会社であるティケオーIM社の運用商品のうち、年金基金等の運用として関心が高まりつつある「プライベートデット」商品を、日本の年金基金等へ提供します。

また投資先企業の選定にあたり、ESG（環境・社会・ガバナンス）の要素を取り入れることにより、持続可能な社会形成への貢献も目指しております。

ペット&ファミリー 損害保険株式会社

ペットを家族の一員として認識する飼い主さまの意識の変化により、ペット医療及びその費用への関心がますます高まっています。同社では、ペット医療費用へのニーズに対応し、飼い主さまとペットが安心して治療を受けることができるよう、ペットが病気やケガにより動物病院で治療を受けた費用の一定割合を補償する商品『げんきナンバーわん』『げんきナンバーわんスリム』をご提供しています。

Pet News Storage

同社のホームページには、ペットライフを充実させるコンテンツ「Pet News Storage」を公開しています。



グループインフォメーション

4月 ● グループ中期経営計画「Try & Discover 2021 ～共有価値の創造～」スタート

● 「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」提言へ賛同

● ペット&ファミリー社が損害保険会社に移行

5月 ● 中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」年間レポート
(2018年度景気動向調査結果)を発行



6月 ● 次世代携帯端末「太陽生命コンシェルジュ」の新機能が特許を取得

● 「T&Dユナイテッドキャピタル」設立

7月 ● 「Try & Discover フォトコンテスト2019」の開催



8月 ● 太陽生命がミャンマーの生命保険会社(キャピタル・ライフ社)への出資・関連会社化

9月 ● フランスの資産運用会社ティケオー・キャピタル社と資本業務提携契約を締結

● 太陽生命カップ2019「第10回全国中学生ラグビーフットボール大会」への特別協賛

● T&Dフィナンシャル生命社員が「デフフットサルワールドカップ2019」の日本代表に決定

10月 ● 太陽生命が味の素(株)・(株)エスアールエル・(株)セルメスタとの三大疾病予防に関する業務提携契約を締結

● 大同生命が中小企業向け「健康経営実践モデル」構築のための産学連携プロジェクトを開始



IR活動の紹介

主な取組み

当社では、トップ・マネジメントによる説明を原則とした、発信力の高いIR活動を行っております。機関投資家・アナリスト向け説明会の定期的な開催に加え、国内外の投資家を訪問して個別ミーティングを行い、当社グループの経営環境、経営戦略、及び財務・業績状況に関する情報をご提供しています。また、対話から得られたご意見を、グループの経営陣・従業員と広く共有しています。



統合報告書の発行

T&D保険グループは、2019年9月に統合報告書を発行いたしました。当報告書は、グループ各社の事業や取組みが、グループの中長期的な成長やステークホルダーのみなさまへの価値創出にどのように結びついているか、ESG（環境・社会・ガバナンス）の視点を踏まえて分かりやすく説明したものです。

具体的には、「前中期経営計画の成果」「2019年4月始期の中期経営計画の方針」「社会・環境への取組み」等について報告しています。

当報告書は当社ホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.td-holdings.co.jp/>



2019年版 統合報告書

特集「Special Meeting ～T&D保険グループの共有価値創造」

特集企画として、社長の上原と三菱UFJモルガン・スタンレー証券チーフ環境・社会(ES)ストラテジスト吉高まり氏による特別対談を収録しています。「共有価値の創造」をテーマとして、社会から求められるCSRの取組み等について意見交換を行っています。



業績ハイライト(主要経営指標)

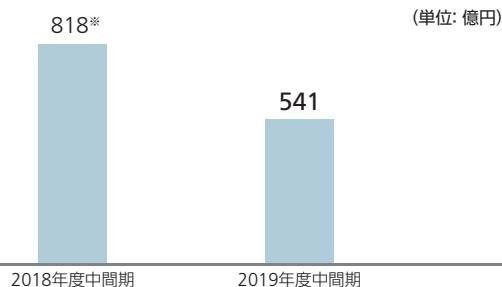
連結主要収支

単位:億円

| | 2019年度 通期業績予想 | 2019年度 中間期 | 進捗率 | 前年同期比 |
|-----------------|------------------|---------------|-------|--------|
| 経常収益 | 21,100 | 10,889 | 51.6% | ▲1.0% |
| 経常利益 | 1,220 | 677 | 55.5% | ▲20.6% |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 640 | 362 | 56.6% | ▲20.4% |

経常収益は、保険料等収入や利息及び配当金等収入の増加があったものの、有価証券売却益が減少したこと等により前年同期から減少しました。親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期から減少。通期業績予想に対する進捗率は56.6%になりました。

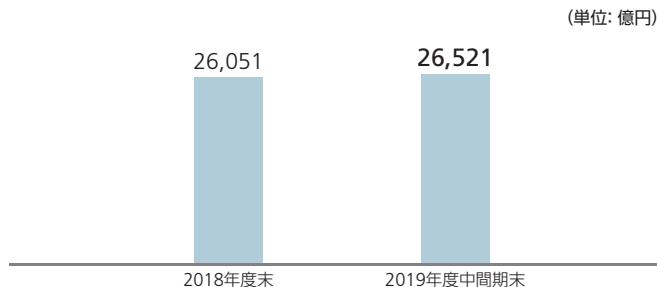
新契約価値 541 億円



新契約価値は、当期中に販売した新契約の価値を表したものです。中間期は、保険契約の販売減少等により541億円となりました。

※2018年度中間期の新契約価値については、算出の際に用いる割引金利の計算方法が現行と異なる(終局金利非適用)。

Group MCEV 2兆6,521 億円



EV (エンベディッド・バリュー)とは、生命保険会社の企業価値を評価する指標の一つであり、MCEVは金融市場で取引される金融商品の価格と整合的に評価したEVです。中間期末では、2兆6,521億円となりました。

業績ハイライト

T&Dホールディングス

- ・新契約年換算保険料は、主に大同生命における定期保険の税務取扱いの見直しに伴う一部商品の販売停止の影響により前年同期から37.2%減少し、481億円となりました。
- ・保有契約年換算保険料は前年度末から減少しましたが、第三分野の保有契約年換算保険料は、引き続き堅調に推移し、2,546億円となりました。

(単位: 億円)

| | 2018年度中間期 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで | 2019年度中間期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで |
|-------------------------|---|---|
| 契約業績(生命保険会社3社合算) | | |
| 新契約年換算保険料 | 766 | 481 |
| 第三分野の新契約年換算保険料 | 278 | 146 |
| 保有契約年換算保険料 | 15,495 ^{**} | 15,417 |
| 第三分野の保有契約年換算保険料 | 2,510 ^{**} | 2,546 |
| 損益関係 | | |
| 経常収益 | 11,003 | 10,889 |
| 保険料等収入 | 8,545 | 8,752 |
| 資産運用収益 | 2,134 | 1,792 |
| その他経常収益 | 323 | 343 |
| 経常費用 | 10,151 | 10,212 |
| 保険金等支払金 | 5,771 | 5,853 |
| 責任準備金等繰入額 | 2,536 | 2,257 |
| 資産運用費用 | 513 | 699 |
| 事業費 | 1,008 | 1,072 |
| その他経常費用 | 320 | 330 |
| 経常利益 | 852 | 677 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 455 | 362 |
| その他指標 | | |
| 連結ソルベンシー・マージン比率 | 1,093.1% ^{**} | 1,099.1% |
| Group MCEV | 26,051 ^{**} | 26,521 |

※2018年度末実績を記載。

格付け(2019年9月30日時点)

日本格付研究所(JCR) 長期発行体格付 **AA-**

業績ハイライト／子会社の状況

太陽生命

- ・第三分野の保有契約年換算保険料は、引き続き堅調に推移しており、前年度末から1.5%増加し1,124億円となりました。
- ・MCEVは新契約の着実な積み上げにより、前年度末から315億円増加し9,286億円となりました。

(単位: 億円)

| | 2018年度中間期 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで | 2019年度中間期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで |
|-----------------|---|---|
| 契約業績 | | |
| 新契約年換算保険料 | 190 | 162 |
| 第三分野の新契約年換算保険料 | 84 | 76 |
| 保有契約年換算保険料 | 6,139 ^{**} | 6,079 |
| 第三分野の保有契約年換算保険料 | 1,107 ^{**} | 1,124 |
| 損益関係 | | |
| 保険料等収入 | 3,781 | 3,245 |
| 保険金等支払金 | 2,743 | 2,768 |
| 経常利益 | 383 | 216 |
| 中間純利益 | 208 | 87 |
| その他指標 | | |
| 基礎利益 | 288 | 274 |
| 順ざや額 | 109 | 143 |
| ソルベンシー・マージン比率 | 849.7% ^{**} | 847.5% |
| MCEV | 8,971 ^{**} | 9,286 |

※2018年度末実績を記載。

格付け(2019年9月30日時点)

格付投資情報センター
(R&I)

保険金支払能力

AA-

日本格付研究所(JCR)

保険金支払能力格付

AA-

スタンダード&
プアーズ(S&P)

保険財務力格付け

A

- ・定期保険の税務取扱いの見直しに伴う一部商品の販売停止の影響により、新契約高は54.5%減少しましたが、保有契約高は47兆662億円と前年度末から概ね同水準で推移しました。
- ・中間純利益は、主に責任準備金等繰入額の減少等により、前年同期から14.3%増加しました。

(単位: 億円)

| | 2018年度中間期 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで | 2019年度中間期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで |
|-----------------------|---|---|
| 契約業績 | | |
| 新契約年換算保険料 | 514 | 202 |
| 第三分野の新契約年換算保険料 | 193 | 67 |
| 保有契約年換算保険料 | 8,203 ^{**} | 8,120 |
| 第三分野の保有契約年換算保険料 | 1,376 ^{**} | 1,395 |
| 新契約高 | 40,507 | 18,416 |
| 就業不能保障商品・介護保障商品の新契約高 | 23,734 | 6,785 |
| 保有契約高 | 471,460 ^{**} | 470,662 |
| 就業不能保障商品・介護保障商品の保有契約高 | 103,879 ^{**} | 107,111 |
| 損益関係 | | |
| 保険料等収入 | 4,045 | 3,999 |
| 保険金等支払金 | 2,464 | 2,549 |
| 経常利益 | 450 | 450 |
| 中間純利益 | 237 | 271 |
| その他指標 | | |
| 基礎利益 | 543 | 606 |
| 順ざや額 | 212 | 210 |
| ソルベンシー・マージン比率 | 1,271.9% ^{**} | 1,290.5% |
| MCEV | 16,080 ^{**} | 16,164 |

※2018年度末実績を記載。

格付け(2019年9月30日時点)格付投資情報センター
(R&I)

保険金支払能力

AA-

日本格付研究所(JCR)

保険金支払能力格付

AA-スタンダード&
プアーズ(S&P)

保険財務力格付け

A

- ・新契約年換算保険料は、2019年7月より発売した「生涯プレミアムワールド5」の好調により、前年同期から54億円増加しました。
- ・中間純利益は、「生涯プレミアムワールド5」の販売伸展に伴う初期負担の増加等により、前年同期から6億円減少しました。

(単位: 億円)

| | 2018年度中間期 2018年4月 1日から 2018年9月30日まで | 2019年度中間期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで |
|-----------------|---|---|
| 契約業績 | | |
| 新契約年換算保険料 | 61 | 115 |
| 第三分野の新契約年換算保険料 | 1 | 1 |
| 保有契約年換算保険料 | 1,152 ^{**} | 1,217 |
| 第三分野の保有契約年換算保険料 | 25 ^{**} | 26 |
| 新契約高 | 1,902 | 2,073 |
| 平準払商品の新契約高 | 1,265 | 701 |
| 保有契約高 | 21,729 ^{**} | 22,697 |
| 損益関係 | | |
| 保険料等収入 | 694 | 1,479 |
| 保険金等支払金 | 550 | 520 |
| 経常利益 | 14 | 5 |
| 中間純利益 | 8 | 1 |
| その他指標 | | |
| 基礎利益 | △ 7 | △ 25 |
| 順ざや額 | △ 9 | △ 11 |
| ソルベンシー・マージン比率 | 1,101.7% ^{**} | 1,067.2% |
| MCEV | 1,018 ^{**} | 941 |

※2018年度末実績を記載。

格付け(2019年9月30日時点)格付投資情報センター
(R&I)

保険金支払能力

AA-

日本格付研究所(JCR)

保険金支払能力格付

AA-

会社概要 (2019年9月30日現在)

名称(商号) 株式会社T&Dホールディングス
所在地 東京都中央区日本橋二丁目7番1号
代表電話 03-3272-6110
設立時期 2004年4月1日
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日 定時株主総会において権利を行使できる株主は、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載・記録された株主といたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座 東京都府中市日鋼町1-1
口座管理機関
○テレホンセンター(フリーダイヤル)
TEL 0120-232-711
(土・日・祝祭日等を除く9:00~17:00)
○郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

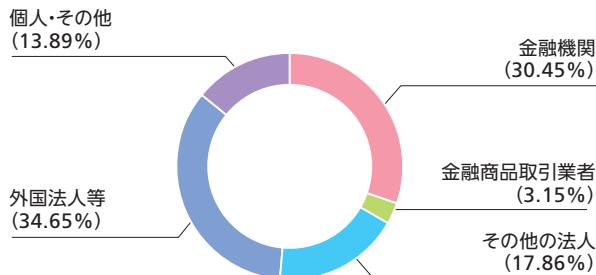
株式の状況 (2019年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 1,932,000千株
発行済株式の総数 655,000千株
株主数 222,156名

株式分布状況

所有者別株式分布状況



住所変更お手続きのご案内

お引っ越し等で住所が変わられた株主さまは、住所変更のお手続きをお願いいたします。右記お申し出先にご連絡いただきますとお手続きが可能です。
当社の株式を管理されている口座によってお手続きの窓口が異なります。

| 管理口座 | お申し出先 |
|--------------------|--|
| 証券会社の口座 | お取引の証券会社 |
| 三菱UFJ信託銀行の口座(特別口座) | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ●テレホンセンター(フリーダイヤル) TEL 0120-232-711 ●郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 |



本紙は、植物油インキを使用しております。